

#### IV-1 一色町の小・中学校における総合的な学習の授業と評価の工夫

##### (1) 本町における総合的な学習への取り組み

###### ① 最近の研究動向

一色町は、愛知県の岡崎平野南部に位置する人口約 25,000 人の町である。三河湾に浮かぶへき地離島の佐久島を除き、町内に 4 小学校（一色中部小学校・一色東部小学校・一色西部小学校・一色南部小学校）・1 中学校（一色中学校）がある。4 小学校の児童は一色中学校に進学するといった環境にある。

平成 8 年度から総合的な学習の時間の研究を一色中学校でスタートさせた。研究主題は「自己を問い、生き方についての自覚を深め、自立を目指す生徒の育成一地域に根ざした総合学習を通して一」であった。地域を学習の場として、地域で活躍する人々の生き方から学んだことを自己の生き方に反映させるための単元や学習過程を開発し始めた。先例がほとんどない試みであるが故、実践→検証を繰り返した。生徒たちの中には、この学習がきっかけでその将来の方向を決めていく者もいた。また、自分の生活を少しずつ変えていこうとする者も現れた。しかし、大半は学校の中だけの学びという域を出なかった。その原因を探っていくと次のような事実につき当たった。

その頃は「子どもの主体的な学びの姿そのものを求めたいにすぎず、学びの成長を分析的に見ていなかった」つまり、この単元を通してどういう力が培われるのかとか、どういう力をこの単元を通して培うのかということがはっきりされないまま研究が進んでいった。教師主導のもと生き生きと活動する子どもたちの姿だけに満足し、そこで何を学びとらせるのかということがはっきりしていなかった。だから、学校の中、すなわち教師が作った教育環境の中では自ら動くことができても、それが実生活の中で生かされたり、生き方に反映されたりすることは見取れなかった。総合的な学習の時間の学びが実生活で生かされたり、生き方に反映されたりするように学習内容をはじめとした総合的な学習の時間の指導の在り方を検討することが急務となった。

平成 11 年度から、新学習指導要領の実施を見据えながら、一色中部小学校において「ふるさと“一色”の語れる子一学ぶ楽しさを味わい、自分らしく追究する子一」という研究主題のもとに研究が始まるなど、他の 3 小学校もそれぞれの地域の特色を生かして総合的な学習の時間への取り組みを開始した。その中心となる組織として、一色町教育現代化センターに総合学習部会を設立し、町をあげての研究となった。研究を進めていく中で私たちは、小中 9 年間を見通した指導により、学校知と生活知の一体化を図ったり、知の総合化を図ったりしながら、社会に生きる人間としての基礎・基本を育てることの必要性を痛感した。すなわち「子どもが生きる力を育てていくためには、9 年間を見通した小中一貫の総合的な学習の実践が不可欠である」と考えたのである。

平成 14 年度～16 年度、文部科学省より研究開発学校の指定を受けた。研究主題を「小中学校一貫の総合的な学習の時間の教育課程の編成と体系的な評価」と掲げた。

各学校が同一曜日の同一校時に 2 時間続きの総合的な学習の時間を設定することによって、体験活動や学校間交流の充実を図る。また、小中一貫の「内容系列表」をもとに、学習過程と評価計画を作成し、小中一貫の体系的な評価の在り方を、実践を通して探るとともに、指導と評価の一体化や自己学習力の向上をめざした手だての構築に取り組ん

でいる。

## ② 「内容系列表」の作成

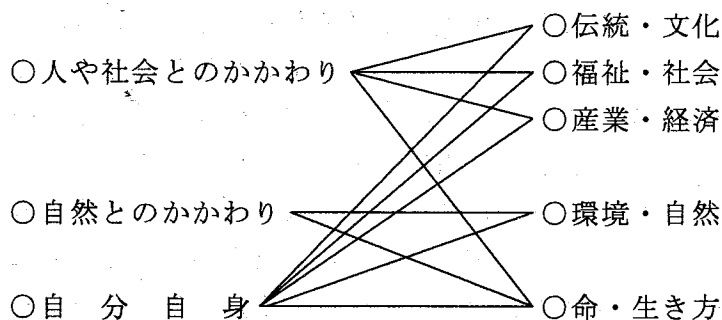
現行の学習指導要領では、総合的な学習の時間について、目標及び内容が各学校に任されているため、どのような内容を設け、学年の発達段階にそってどのように関連性・系統性をもたせて配置するのかという総合的な学習の時間の学習指導要領とでもいうべきものとして内容系列表を各学校で考案・作成する必要がある。各学校、学年、指導者はこの内容系列表に示された内容をもとにして単元の目標や学習過程を設定することができる。さらに、そこに関連すべき知識・技能等も決めることができる。また、子どもの系統的な発達を把握し、適切な支援がしやすくなる。さらには、内容を系統的に明確にすることによって、学びの評価も一貫性をもつことになる。本町では、4小学校の児童たちが一色中学校に進学するといった環境を生かして、5校の協同作業による小中一貫の内容系列表を作成し、生活科及び総合的な学習の時間を展開していくことにした。

私たちは、小中一貫の学習を通して「生活の中で生きて働く問題解決能力の育成」「自己の生き方を問い続ける心の育成」という目標を立てた。この目標を実現していくための学習内容について、その領域ともいうべき「基本的な視点」を考えることにした。まず、5つの学校における過去の実践より、学習内容や育った力を整理し、次に目標と照らし合わせながら、子どもたちが学習対象の中に含まれる価値を見出し、自己の生き方を考え、望ましい生き方を実践していけるものを選んだり、新たに設定したりした。その際には、生活科の内容を基盤に、総合的な学習の時間の内容が関連性・系統性をもって展開されていくことを配慮した。

そして、生活科においては、現行の学習指導要領に則して「人や社会とのかかわり」「自然とのかかわり」「自分自身」の3つの基本的な視点を、総合的な学習においては、新たに「伝統・文化」「福祉・社会」「産業・経済」「環境・自然」「命・生き方」の5つの基本的な視点を設定した。これらの視点の関連性・系統性は次のようである。

<生活科の3つの基本的な視点>

<総合的な学習の5つの基本的な視点>



それぞれの視点において、子どもにどのような学びや育ち期待するのか、次のような目標を設定した。

### 【総合的な学習の時間の目標】

- ① 身近な地域の伝統や文化にふれたり、他の地域や外国の特色ある伝統や文化にふれたりすることにより、地域により異なる文化や伝統があることをとらえ、それらの伝統や文化に直接関わったり、お互いの伝統や文化を尊重し合っている社会を築こうとすることができる。
- ② 年少者や障害のある人たち、お年寄りなど、社会的に弱い立場にある人々との直接的な交流により、いろいろな立場におかれた人たちの実情とその人たちの願いをとらえ、自分ができることを考えたり、仲間と共にその人たちにとって住みよい地域づくりを進めていくための福祉活動に進んで関わるることができる。
- ③ 地域の産業について調査したり、その産業を支えてきた人たちとふれあったりすることにより、その人たちの努力や工夫をとらえ、それを契機にして自ら進むべき道を考えたり、未来に向けて目ざす自分づくりのための行動にしたりすることができる。
- ④ 地域の実態を自然環境や社会環境・環境保全などの観点で見直すことにより、地域の自然環境や社会環境の中で共生していくための具体的な取り組みを考えたり、行動することができる。
- ⑤ 自らの心と体の健康について考えたり、生き物を育てたりすることにより、命の尊さをとらえ、よりよく生きるための自分なりの目標を立て、より豊かに生きようと努力することができる。

そして、子どもの学びや育ちの姿を、発達段階にそって系統的に表したものが次頁に示した『一色町における生活科・総合的な学習の内容系列表』である。



(2) 実践校の紹介

(2) - 1 愛知県一色町立一色中部小学校

① 学校所在地等

〒444-0423 愛知県幡豆郡一色町大字一色字乾地100番地

【学年別学級数】

学 年	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年	特殊特殊 1	特殊特殊 2	合計
学級数	2	3	2	2	2	3	1	1	16
児童数	76	87	69	61	61	82	3	2	441

【教職員別人数】

校長	教頭	教諭	養護教諭	事務	校務員	講師	計
1	1	18	1	1	1	3	26

② 学校の沿革

- 1890年 尋常小学校一色と称する
- 1947年 一色町立一色中部小学校と改称する
- 1954年 給食優良校として県教育委員会より表彰を受ける
- 1971年 西三河地方教育事務協議会委嘱の国語科の研究発表会を開く
- 1977年 主体的学習の自主研究発表会を開く
- 1988年 西三河地方教育事務協議会委嘱の道徳の研究発表会を開く
- 2001年 西三河地方教育事務協議会委嘱の研究発表会を開く（生活科・総合的な学習）
- 2002年 文部科学省より「研究開発学校」の指定を受ける（総合的な学習の時間）

(2) - 2 愛知県一色町立一色中学校

① 学校所在地等

〒444-0413 愛知県幡豆郡一色町大字坂田新田字冲向95番地

【学年別学級数】

学 年	1 学年	2 学年	3 学年	特殊学級	合 計
学級数	7	7	8	1	23
生徒数	243	257	291	1	792

【教職員別人数】

校長	教頭	教諭	養護教諭	事務	栄養士	校務員	非常勤講師	合計
1	1	39	1	2	1	1	4	50

② 学校の沿革

- 1947年 一色町立一色中学校開校
- 1963年 数学科研究発表会を開く
- 1970年 生徒指導研究発表会を開く
- 1886年 文部省指定・西三河地方教育事務協議会委嘱の格技指導推進研究発表会を開く
- 1992年 愛知県保健活動推進学校特別優秀賞受賞する
- 1996年 愛知県愛知県教育委員会体力づくり優良校受賞する
- 1998年 西三河地方教育事務協議会委嘱の研究発表会を開く(総合的な学習)
- 2000年 「地域に根ざした総合学習」を発刊する。
- 2001年 愛知県教育委員会より「学校と家庭を結ぶ道徳教育推進事業」の研究委嘱を受ける  
愛知県教育委員会より「夢が語り合える学校づくり」の委嘱を受ける
- 2002年 文部科学省より「研究開発学校」の指定を受ける(総合的な学習の時間)  
国立教育政策研究所より「生徒指導相互連携推進事業」の指定を受ける

(3) 年間単元指導計画の作成

本町では以下のような作成上の留意点をふまえながら、「内容系列表」を活用して年間指導計画を作成した。

- ① 内容系列表に示された学習内容を、発達段階のまとまりとしての小1・2年、小3・4年、小5・6年、中1・2年、中3年ごとに指導していく。
- ② 学習内容と単元は、1対1対応するというように考えず、複数の内容が1つの単元の中で指導されてよい。
- ③ 各学年の単元の数は発達段階を考慮し、年間を通して小学校下学年では4つ～6つ、小学校上学年では2つ～4つ、中学校では2つ～3つとする。
- ④ 指導時間数については、児童生徒の主体的な活動や体験的な活動を十分保障できるようにする
- ⑤ 異学年間や町内の学校間の交流、家庭や地域の人々の協力を得るための工夫をする。
- ⑥ 各校が校区を基盤とし、校区の自然や産業、伝統文化等の地域素材を生かし、特色ある単元を開発する。中学校は、各小学校の学習(内容・単元等)を受け、さらにそれらを深化・統合する単元を開発する。

<小学校3年> 116時間

月	単元(時間)	単元の目標	「内容系列表」との関連	単元の評価規準
4	とっておきの店じまん (49)	・商店街の自分のとっておきの店で お店調べをし、お店の人とふれ合う	産業・経済 (ア)	○関心・意欲・態度 ①とっておきの店の様子を調べたり、店で働く人と進んでかかわろうとする。 ②自分の発見したとっておきの店のことやお

9		<p>活動を通して、店の人に親しみを持ち、自分の発見したとおきのことやお店の人の思いや願いを、自分のまわりの人に知らせることができる。</p>		<p>店の人の思いや願いを、自分のまわりの人に進んで知らせようとする。</p> <p>○思考・判断</p> <p>①お店調べで、とおきの店の人とふれ合った時の様子や感じたことを自分の体験と比べることで、お店の人の思いや願いを考えることができる。</p> <p>②学習したことから、商店街の店の人のよさを再発見することができる。</p> <p>○技能・表現</p> <p>①自分の知りたいことを調べるために、店の人に質問したり、店の様子を見たりすることができる。</p> <p>②店の様子や人の写真に、発見したことや気づいたことを書き込んだり、店にあった物を図に表したりして、自分が知らせたいことをまとめ、それをういておうちの人や友だちに知らせることができる。</p> <p>○知識・理解</p> <p>①自分の店のとおきのものがわかる。</p> <p>②商店街の店の人の思いや願いがわかる。</p>
10	<p>伝えよう！ 一色のお祭り（20）</p>	<p>・一色町のお祭り調べをし、そのお祭りが大勢の人たちの協力や努力によって昔から途切れる的な行事に進んで関わっていくことができる。</p>	<p>伝統・文化 （ア）</p>	<p>○関心・意欲・態度</p> <p>①身の回りにある伝統的な行事に関心を持つようとする。</p> <p>○思考・判断</p> <p>①お祭りの種類や工夫とお祭りに関わっている人々の思いを関連づけて整理することができる。</p> <p>○技能・表現</p> <p>①お祭り調べを通して見つけたこと、分かったことを文や絵に表したり、写真やビデオを使ったりして友だちに知らせることができる。</p> <p>○知識・理解</p> <p>①身近なお祭りが、大勢の人たちの協力や努力によって途切れることなく行われていることがわかる。</p>
12	<p>元気もりもり大作戦（10）</p>	<p>・自分の生活を振り返り、毎日の生活と健康の関わりに気づき、生活をよりよくするための方法を考え、生活に生かそうとしていくことができる。</p>	<p>命・生き方 （イ）</p>	<p>○関心・意欲・態度</p> <p>①毎日の生活と健康との関わりに関心を持つようとする。</p> <p>○思考・判断</p> <p>①自分の生活点検の振り返りから、毎日の生活と健康との関わりを考えることができる。</p> <p>②もっと健康になるための自分の目標を立て、実践し、振り返ることができる。</p> <p>○技能・表現</p> <p>①家庭での健康への取り組みを家族から聞き取り、プリントに整理することができる。</p> <p>○知識・理解</p> <p>①自分が健康であるためには生活リズムが大切であることがわかる。</p>

1	一色のウナギを広めようーぼくらウナギのPRし隊ー(37)	・一色のウナギのPR活動をするこ とで、地域の人と かかわることを通 して、地域の産業 のよさに気づき、 愛着をもつことが できる。	産業・経済 (ア)	○関心・意欲・態度 ①ウナギのことを多くの人に知らせるために、 地域や地域の人に進んでかかわろうとする。 ○思考・判断 ①自分たちにできるPR活動を工夫することが できる。 ②ウナギにかかわる人たちの願いや思いを整 理することができる。 ○技能・表現 ①調べたことや考えを伝えるための適切な方 法を選び、表すことができる。 ○知識・理解 ①ウナギにかかわる人たちの願いや思いがわ かる。
3				

<小学校4年> 116時間

月	単元(時間)	単元の目標	「内容系列表」と の関連	単元の評価規準
4	『チャレン ジ! 町の花 カーネーシ ョン』 (116)			
5	(1) さし 芽にチャレ ンジ! (30)	・さし芽からカー ネーションを育て る活動を通して、 カーネーションの 育ちの特徴をとら え、カーネーショ ンに対する愛着を 育てると共に、仲 間と協力して活動 することの大切さ に気づくことがで きるようにする。	命・生き方 (ア)	○関心・意欲・態度 ①さし芽の仕方について進んで調べたり、聞 いたりしようとする。 ②仲間と協力して、さし芽の活動に進んで参 加しようとする。 ○思考・判断 ①カーネーションの育ちの特徴から、さし芽 に適した環境を考えることができる。 ②さし芽を成功させるための仲間との協力の 仕方を考えることができる。 ○技能・表現 ①さし芽の仕方を知るために本やインターネ ットで調べたり、校区で実際にカーネーシ ョン栽培をしている方を捜し、聞くことが できる。 ②さし芽のやり方やにさし芽に適した環境に ついて調べたことを絵や図を使ってみんな にわかりやすく伝えたり、調べたことをも とに自分たちの手で造ったりすることがで きる。 ③必要に応じて、電話や手紙を使って用件を 的確に相手に伝えることができる。 ○知識・理解 ①カーネーションの育ちの特徴やさし芽に適 した環境を理解する。 ②さし芽を成功させるためには、仲間同士 のよさを認め、協力して活動することが大切
6				

7	(2) 育てよう！カーネーション(15)	・発根した苗の定植以降の栽培活動を通してカーネーションへの愛着を深めると共に、町の先生との交流を通してカーネーション栽培に携わる地域の方の思いを知ることができるようにする。	命・生き方(ア) 産業・経済(ア)	<p>であることを理解する。</p> <p>○関心・意欲・態度</p> <p>①定植の仕方や定植後の栽培の仕方を選んで調べようとする。</p> <p>②校区のカーネーション栽培の現状や栽培に携わっている方の思いを進んで知ろうとする。</p> <p>○思考・判断</p> <p>①カーネーションの育ちの特徴から、定植に適した環境やその後の栽培の仕方を自分たちで考えることができる。</p> <p>②栽培活動や町の先生との交流を通して、校区でカーネーション栽培に携わっている方のカーネーションに対する思いを整理することができる。</p> <p>○技能・表現</p> <p>①実際に栽培しているところを見たり、栽培している方へ取材したり、地域に出て定植の仕方を調べることができる。</p> <p>②定植の仕方や定植に適した環境について調べたことを絵や図を使ってみんなにわかりやすく伝えたり、調べたことをもとに材料等を工夫して造ったりすることができる。</p> <p>○知識・理解</p> <p>①苗の定植や定植後の栽培の仕方を理解する。</p> <p>②カーネーション栽培に関わっている方の思いを理解する。</p>
8				
9	(3) 咲かせよう！カーネーション(20)	・「きれいな花をたくさん咲かせたい」という願いを持つことで、カーネーションの栽培を意欲的に続け、町の先生をはじめとした地域の方のつながりも強めていくことができるようにする。	命・生き方(ア) 産業・経済(ア)	<p>○関心・意欲・態度</p> <p>①「きれいな花をたくさん咲かせる」ためにはいつ頃、どんな世話をしたらよいか進んで調べようとする。</p> <p>②「きれいな花をたくさん咲かせたい」という願いを持って、仲間と協力して栽培活動を続けようとする。</p> <p>○思考・判断</p> <p>①「きれいな花をたくさん咲かせる」ための世話について自分たちでできることやできないことを判断すると共に、自分たちに合った方法を考えることができる。</p> <p>②きれいな花をたくさん咲かせ、出荷している町の先生の苦労や思いを整理することができる。</p> <p>○技能・表現</p> <p>①「きれいな花をたくさん咲かせる」ための世話について本やインターネットで調べたり、町の先生に尋ねたりすることができる。</p> <p>②調べをもとに世話（特にハウス造り）に必要な材料や道具を見つけるために自分から地域に出て尋ねたり、探すことができる。</p> <p>○知識・理解</p> <p>①「きれいな花をたくさん咲かせる」ために必要な世話やその時期について理解する。</p> <p>②願いに向かって栽培活動を続けていくため</p>

				には、仲間同士互いに融通をつけ合って協力していくことの大切さや、必要に応じて地域の方の力も借りていかなければいけないことを理解する。
10	おじいちゃん・おばあちゃんと仲良くなるう(25)	・「おじいちゃん・おばあちゃんにも自分たちが育てたカーネーションの花を楽しんでほしい」という思いをきっかけに、お年寄りに関わる調べ活動を通して、「毎日元気に暮らしたい」というお年寄りの思いやお年寄りに「毎日元気に楽しく暮らしてほしい」と願ってお年寄りのために働く人の気持ちを知り、自分たちもお年寄りのためにできることを計画・実践することでお年寄りの気持ちを考えて行動することの大切さに気づき、日々の生活の中でも思いやりの心を持ってお年寄りと関わっていくことができるようにする。	福祉・社会(イ)	○(関心・意欲・態度) ①「お年寄り」や「お年寄りのための施設やそこで働いている人」について進んで調べたり、知ろうとする。 ②交流活動や日々の生活の中でお年寄りの気持ちや健康状態などを考えた思いやりのある行動を進んでしようとする。 ○思考・判断 ①老人福祉センターや公民館での活動の見学をもとに「お年寄り」や「お年寄りのために働いている人」の気持ちや工夫について考えることができる。 ②自分とお年寄りとの関わり方について考えることができる。 ○技能・表現 ①「お年寄り」や「お年寄りのための施設やそこで働いている人」について知るために、家の人や訪問先の人に尋ねたり、本やインターネット、新聞記事などを利用して調べることができる。 ②一人調べや見学学習などから分かったことを自分以外の人にもわかりやすくまとめたり、発表したりすることができる。 ○知識・理解 ①「お年寄り」のための施設や活動にはどんなことがあり、どんな人たちが関わっているか、お年寄りのために働く人たちはどんな思いで働いているかを理解する。 ②お年寄りと関わるときに大切なことは、お年寄りの気持ちや健康状態などを一番に考えた思いやりのある行動をすることであることを理解する。
11				
12				
1	(4) ゆめをかなえよう！カーネーションカーネーションプレゼント大作戦(16)	・自分たちが育てたカーネーションをプレゼントする活動を通して、お年寄りへの思いやりの気持ちを強めたり、花を飾ることで町の人々の心を和ませる環境づくりに関わっていくことができるようにする。	命・生き方(ア) 福祉・社会(イ) 環境・自然(イ)	○関心・意欲・態度 ①自分たちが育てたカーネーションをプレゼントする活動に向けて、カーネーションがきれいにたくさん咲くように栽培活動に進んで取り組もうとする。 ②「カーネーションプレゼント大作戦」の計画を自分たちのねらいに合わせて進んで考えようとする。 ○思考・判断 ①「きれいにたくさんのお花を咲かせる」ためには自分たちの手で最後までカーネーションを守らなければいけないことに気づき、そのための活動を考えることができる。 ②プレゼントしたい相手や花を飾りたい場所を自分たちのねらいに合わせて選ぶことが

2	3	<p>(5) カーネーションと過ごした一年をふり返ろう (10)</p>	<p>・一年間の活動をふり返り、カーネーション栽培を核にした活動から学んだことを明らかにし、日々の生活の中に生かしていくことができるようになる。</p>	<p>命・生き方 (ア)</p>	<p>できる。</p> <p>③自分たちのやりたいこととカーネーションの成長の様子をよく見比べて、どうやってプレゼントしたり、飾らせていただくのがよいか、その方法を考えることができる。</p> <p>○技能・表現</p> <p>①「プレゼント」や「飾る」活動に向けて、自分たちの考えを相手にわかりやすく伝えたり、相手の方の都合や考えを聞いたりして活動を進めていくことができる。</p> <p>○知識・理解</p> <p>①季節の移り変わりの中で成長を遂げてきたカーネーションの生命力を感じると共に、カーネーションの一年を通じた成長の特徴を理解する。</p> <p>②町に花を飾る活動を通して、人の気持ちを考えた環境作りの大切さを理解する。</p> <p>○関心・意欲・態度</p> <p>①カーネーションの栽培を核にした活動を通して自分が感じたことや心に残ったことなど、一年間の活動を進んでふり返ろうとする。</p> <p>②活動から学んだことを日々の生活の中で生かして行動しようとする。</p> <p>○思考・判断</p> <p>①一年間の活動のふり返り、自分にとっての活動の意味を考え、整理することができる。</p> <p>○技能・表現</p> <p>①栽培活動を中心に一年の活動の跡を写真や絵、文章を使って自分以外の人にもわかりやすくまとめることができる。</p> <p>○知識・理解</p> <p>①カーネーションの活動から、命の大切さ、仲間と協力することで一人ではできない大きな力が生み出されることなどを理解する。</p>
---	---	--------------------------------------	--	------------------	--

<小学校5年> 116時間

月	単元(時間)	単元の目標	「内容系列」との関連	単元の評価規準
4	2年生となかよくなるう(38)	2年生と仲良くなる方法を考えることを通して、相手の立場や気持ちを尊重することが大切であることに気づき、自分たちなりに考えたなかよくなる方法を実践することができるようにする。	福祉・社会 (ア)	<p>○関心・意欲・態度</p> <p>①2年生と仲良くなる方法を進んで見つけたり、考えたりしようとする。</p> <p>②2年生と共にいる活動に進んで関わり、仲良くなろうとする。</p> <p>○思考・判断</p> <p>①2年生となかよくなる方法を自分の過去の経験や2年生の実態をもとに、自分なりに考えることができる。</p> <p>②2年生と共にいる活動で、相手の興味や能力を考慮して計画を立てることができる。</p> <p>○技能・表現</p>
5				

6				<p>① 2年生と共に行う活動で、相手にわかりやすく伝えるために、ことばづかいを工夫したり、図を取り入れたりして説明したりすることができる。</p> <p>② 2年生と共に行う活動で、自分なりに相手の能力に合わせた活動を考え出すことができる。</p> <p>○知識・理解</p> <p>① 2年生と仲良くなるには、相手の立場や気持ちを尊重することが大切であることを理解する。</p>
7	一色のえびせんべいの未来を考えよう(43)	えびせんべいの携わっている人々たちへのインタビューなどの関わりを通して、その人たちのえびせんべい作りに対する知恵や工夫・願いに気づき、共感して受け止め、地域の一員として、えびせんべいを発展させるために自分なりに考えた活動を行うことができるようにする。	<p>伝 統 ・ 文 化 (ア)</p> <p>産 業 ・ 経 済 (ア)</p>	<p>○関心・意欲・態度</p> <p>① えびせんべいについて進んで調べたり、工場や店の人たちにインタビューしようとする。</p> <p>② えびせんべいを発展させるための提案を進んで考えたり、工場や店の人たちに知らせようとする。</p> <p>○思考・判断</p> <p>① 自分の調べたい計画や方法を考え、工場や店の様子を見学したり、工場や店の人に質問をしたりすることができる。</p> <p>② えびせんべい作りの歩みや、えびせんべい作りに関わる人たちの工夫や知恵や願いと社会的ニーズとの関連を構造的に結びつけて考えることができる。</p> <p>○技能・表現</p> <p>① 工場や店の人に失礼にならない見学のお願いや連絡、訪問時のあいさつ、マナーなどを実践することができる。</p> <p>② えびせんべいについて調べたことや活動したことを相手にわかりやすく伝えるために写真・図・表を効果的に使ってまとめることができる。</p> <p>○知識・理解</p> <p>① えびせんべいの歩みや、携わる人たちの努力や工夫・願いがわかる。</p>
9				
10				
11				
12				
1	取りもどそうきれいな川(35)	一色排水路の汚れを調べることを通して、川の汚れが自然や環境におよぼす悪影響や問題に気づき、川の浄化に向けて自分なりに考えた活動を行うことができるようにする。	環 境 ・ 自 然 (ア)	<p>○関心・意欲・態度</p> <p>① 一色排水路の汚れについて、進んで調べようとする。</p> <p>② 川の浄化のための活動を進んでしようとする。</p> <p>○思考・判断</p> <p>① 一色排水路の汚れを調べるための方法を考え、実験や調査を行うことができる。</p> <p>② 一色排水路の汚れが自然や環境におよぼす影響を構造的に考えることができる。</p> <p>③ 川の浄化のための活動を自分なりにできる工夫を考えることができる。</p>
2				

3				<p>○技能・表現</p> <p>①一色排水路について調べたことを相手に伝えるために、写真や表、グラフなどを効果的に使ってまとめることができる。</p> <p>○知識・理解</p> <p>①一色排水路の汚れが自然や環境におよぼす影響や問題点に気づく。</p>
---	--	--	--	---

< 小学校 6 年 > 116 時間

月	単元 (時間)	単元の目標	「内容系列表」と の関連	単元の評価規準
4	1 年生が教えてくれたもの (30)	1 年生のためにできることに取り組むことを通して、福祉活動における大切なことに気づき普通の生活においても社会的弱者に対する接し方を考え、実践できるようにする。	福祉・社会(ア)	<p>○関心・意欲・態度</p> <p>①1 年生に進んで関わろうとする。</p> <p>②社会的弱者に対する接し方を考え、生活しようとする。</p> <p>○思考・判断</p> <p>①1 年生にルールを守ることや自分で最後までやることの大切さを教えるとともに、年少者との適切な関わり方を考え出すことができる。</p> <p>②1 年生との関わりで学習したことを基に社会的弱者に対する接し方を考え出すことができる。</p> <p>○技能・表現</p> <p>①1 年生との関わりの中で気づいたことを自分の言葉で、友だちに伝えることができる。</p> <p>○知識・理解</p> <p>①社会的弱者との関わりは身近で自分のできることを積み重ねていくことが大切であることを理解する。</p>
7				
9	一色町の未来を考える (64)	商店街を知る活動を通して、商店街がこの町の発展や住みやすい町づくりに果たしてきた役割に気づいたり現状を理解したりする中で「一色町の未来」について願いをもち、自分たちのできることを実践する。	産業・経済(ア)	<p>○関心・意欲・態度</p> <p>①商店街について進んで調べ、知ろうとする。</p> <p>②コミュニケーションを図るための活動や一色町が温かい町であり続けるための活動を積極的に実践しようとする。</p> <p>○思考・判断</p> <p>①商店街を知る方法をいろいろな面から考えることができる。</p> <p>②商店街の昔の姿や今の姿、商店街で働く人たちや商店街に対する町の人たちの思い、商店街の価値や人々の受け止め方の変化を関連づけて考えることができる。</p> <p>③コミュニケーションを図るための活動や一色町が温かい町であり続けるための活動を考えることができる。</p>

12				<p>○技能・表現</p> <p>①商店街のことを進んで家族や訪問先の人に尋ねたり，町誌などの文献で調べたりしようとする。</p> <p>②調査して気づいたことをB紙に表やグラフを効果的に活用しながらまとめ，友だちや町の人に伝えることができる。</p> <p>○知識・理解</p> <p>①この町に住む人たちにとって，商店街は生活を支えたり，生活にうるおいを与えたりしてきたことを理解する。</p> <p>②商店街で働く人の思いや工夫，周辺に住む人の意識の変化を理解する。</p>
1	描こう！ぼくらの未来予想図（22）	富岡先生の自分史から，富岡先生の生き方を考えることを通して，自分が本当にやりたいことを見つれたりつらいことがあってもそれをやり通す強さを身につけたりすることが大切であることに気づき自分の未来予想図をもとに，普段の生活の中で大切にしたい生き方を実践できるようにする。	命・生き方(ウ)	<p>○関心・意欲・態度</p> <p>①富岡先生の自分史から，富岡先生の生き方を意欲的に知ろうとする。</p> <p>②これからの生活で大切にしたいことを考え，生活の中で実践しようとする。</p> <p>○思考・判断</p> <p>①富岡先生の中学校・高校時代の生活，教師になってからの闘病生活から豊かな人生を送るために大切なことを考え出すことができる。</p> <p>②富岡先生の自分史と自分史をもとに，これからの自分の在り方を考え出すことができる。</p> <p>○技能・表現</p> <p>①富岡先生の自分史から気づいたことを中学校・高校時代の生活，教師になってからの生活に分けて，図や表を効果的に活用しながらまとめ，友だちに伝えることができる。</p> <p>②自分の今までとこれからの，「未来予想図」としてまとめることができる。</p> <p>○知識・理解</p> <p>①豊かな人生を送るためには，自分が本当にやりたいことを見つれたり，つらいことがあってもやり通す強さを身につけることが大切であることを理解する。</p>
3				

< 中学校 1 年 > 140 時間

月	単元 (時間)	単元の目標	「内容系列」 との関連	単元の評価規準
4	My Home Town 一色再発見 (95)	地域を支える様々な活動をしている人々に取材	伝統・文化 (ア) 福祉・社会	<p>○関心・意欲・態度</p> <p>①一色町を支えるために様々な活動をしている人々の存在に気づき，その</p>

10		<p>をしたり、一緒に体験をしたりすることを通して、地域の生活の基盤としての意味を理解し、地域に対する信頼と愛着を育てるとともに、地域の抱える問題に気づき、自分のできることを実践していこうとする。</p>	<p>(ア) (イ) 産業・経済 (ア) 環境・自然 (ア) 命・生き方 (ア) (イ) (ウ)</p>	<p>人達について進んで調べようとする。 ②自分にもできることを通して一色町に進んで関わっていこうとする。 ○思考・判断 ①一色町を支える人々について調べるために計画を立て、見通しをもった追究ができる。 ②一色町を支える人々の活動に対する思いや願いを整理することができる。 ○技能・表現 ①一色町を支える人々について取材の計画をたて、アポイントをとり、実際に取材したり体験することができる。 ②自分の追究したことを写真や図・表などを使って効果的にまとめ、それを友達にわかりやすく発表することができる。 ○知識・理解 ①一色町を支える人々は、町のためにさまざまな願いをもって活動していることを理解する。 ②一色町は、町を支える様々な人々のつながりや努力によって暮らしよい町になっていることを理解する。</p>
11	<p>私たちの一色町～ありがとうの心を形に～(45)</p>	<p>地域の課題や地域に住む人々の願いをもとに、地域を調査し、自分たちで地域のためにできることを考え、実践することができる。</p>	<p>伝統・文化 (イ) (ウ) 福祉・社会 (ア) (イ) 産業・経済 (ア) 環境・自然 (イ) 命・生き方 (ア)</p>	<p>○関心・意欲・態度 ①自分たちが地域や地域の人のために何ができるかを意欲的に調べたり、考えたりしようとする。 ②自分たちが計画した学級自主活動の準備や実践に進んで取り組もうとする。 ○思考・判断 ①自分たちで考えた活動を計画したり、実践内容の改善点を考えたりすることができる。 ②今までの自分をふり返り、これからできることを考え出すことができる。 ○技能・表現 ①自分たちの活動を分かりやすく整理し、まとめることができる。 ②町の人に広く知ってほしいことがらの発信の方法を考え、効果的に情宣することができる。 ○知識・理解 ①一色町を支える活動の大切さや難しさ、そられにこめられた人々の思いや願いを理解する。 ②これからの一色町を支えていくためには自分を含め多くの仲間の理解と協力が必要であることがわかる。</p>



11				<p>て考えることができる。</p> <p>○技能・表現</p> <p>①職業や働くことの意味を人に聞いたり，図書やインターネットなどで調べることができる。</p> <p>②職業や働くことについて調べたことや学んだことをわかりやすくまとめたり，伝えたりすることができる。</p> <p>○知識・理解</p> <p>①職業の種類や必要な資格など，職業の特徴を理解する。</p> <p>②職場の方からの聞き取りや職場の様子などから，働く意義やそれに伴う苦勞，職業に関わる社会的な問題を理解する。</p>
12	見つけよう，ぼくらの21世紀>紀(36)	我が国の抱える今日的な課題の中から，自分が関心をもったことについて，新聞，書籍，インターネットなどでの調査や，身近な地域，県内，東京都の関係機関での取材や体験活動を通して，現状や解決のための取り組みを知り，社会に対する認識を深め，社会の一員として自分にできることを考え，実践することができる。	<p>伝 統 ・ 文 化 (ア) (イ)</p> <p>福 祉 ・ 社 会 (ア) (イ)</p> <p>産 業 ・ 経 済 (ア)</p> <p>環 境 ・ 自 然 (ア) (イ) (ウ)</p> <p>命 ・ 生 き 方 (ア) (イ) (ウ)</p>	<p>○関心・意欲・態度</p> <p>①身近な社会問題を自分のこととしてとらえ，積極的に調べようとする。</p> <p>②社会問題の解決に向け自分は何ができるかを考えたり，問題解決に向けた活動や発信活動に取り組もうとする。</p> <p>○思考・判断</p> <p>①社会問題の中から何が問題であり，何が追究する課題であるかを考え，追究計画を立てることができる。</p> <p>②社会問題を様々な立場や視点から見つめ，原因や取り組みについて自分なりの価値判断をすることができる。</p> <p>③自分や仲間の追究した内容をもとに，社会を広い視野で見つめ直し，問題解決にむけた活動を考えることができる。</p> <p>○技能・表現</p> <p>①新聞，書籍，インターネット，聞き取りなどを活用して様々な立場や視点から調べることができる。</p> <p>②追究を通して考えたよりよい社会にするための方法をわかりやすくまとめたり，周りの人に伝えたりすることができる。</p> <p>○知識・理解</p> <p>①社会問題の原因や解決方法，これからの問題点を理解する。</p> <p>②社会問題の解決に取り組む団体や個人の活動やそこに込める思いを理解する。</p>
3				

< 中学校 3 年 > 140 時間

月	単元	単元の目標	「内容系列」	単元の評価規準
---	----	-------	--------	---------

	(時間)		との関連	
4	見つけよう、 ぼくらの 21 世>紀(56)	我が国の抱える 今日的な課題の 中から、自分が 関心をもったこ とがらについて、 新聞、書籍、イ ンターネットな どでの調査や、 身近な地域、県 内、東京都の関 係機関での取材 や体験活動を通 して、現状や解 決のための取り 組みを知り、社 会に対する認識 を深め、社会の 一員として自分 にできることを 考え、実践する ことができる。	伝 統 ・ 文 化 (ア) (イ) 福 祉 ・ 社 会 (ア) (イ) 産 業 ・ 経 済 (ア) 環 境 ・ 自 然 (ア) (イ) (ウ) 命 ・ 生 き 方 (ア) (イ) (ウ)	○関心・意欲・態度 ①身近な社会問題に関心を持ち、自分 のこととしてとらえ、積極的に調べ ようとする。 ②社会問題の解決に向け、自分は何が できるか考え、問題解決に向けた活 動や発信活動に進んで取り組もうと する。 ○思考・判断 ①社会問題の中から何が問題であり、 何が追究する課題であるかを考え、 追究計画を立てることができる。 ②社会問題を様々な立場や視点から見 つめ、原因や取り組みについて自分 なりの価値判断をすることができる。 ③自分や仲間の追究した内容をもとに、 社会を広い視野で見つめ直し、問題 解決にむけた活動を考えることがで きる。 ○技能・表現 ①新聞、書籍、インターネット、聞き 取りなどを活用して様々な立場や視 点から調べることができる。 ②追究を通して考えたよりよい社会に するための方法をわかりやすくまと めたり、周りの人に伝えたりするこ とができる。 ○知識・理解 ①社会問題の原因や解決方法、これか らの問題点を理解する。 ②社会問題の解決に取り組む団体や個 人の活動やそこに込める思いを理解 する。
7				
9	開け！世界へ の扉(69)	地球的な視野 にたって問題を 発見し、自ら設 定した課題の追 究を通して、地 球市民の一員と しての自己の生 き方を見つめ、 問題解決のため に行動する意欲 を高め、自己の できることを地 域に発信する工 夫をし、実践す ることができる。	伝 統 ・ 文 化 (ウ) 福 祉 ・ 社 会 (ア) (イ) 産 業 ・ 経 済 (イ) 環 境 ・ 自 然 (ウ) 命 ・ 生 き 方 (ア)	○関心・意欲・態度 ①世界に視野を広げ、地球市民として 世界の現状に関心を持ち、積極的に 調べようとする。 ②問題の解決のために行動する意欲を 高め、自分たちが考えた地域への発 信活動の準備や実践に積極的に取り 組もうとする。 ○思考・判断 ①課題を設定したり、追究内容や追究 方法の見直しをしたりすることがで きる。 ②追究の成果をどのような方法で発信 すれば効果的であるかを考えたり、 その価値を判断したり、地球市民と しての今後の自分の生活の在り方を 考えることができる。

12				<p>③追究の結果をもとに、世界の現状と今の自分の生活や地域の生活とのかかわりを考え、自己のできることを導き出すことができる。</p> <p>○技能・表現</p> <p>①世界の子供たちについての調査を仲間と協力して進め、クラスの仲間とわかりやすく発表することができる。</p> <p>②世界の子供たちについて調べたことや学んだことを分かりやすくまとめたり、冊子やちらし、催し物などを通して伝えることができる。</p> <p>○知識・理解</p> <p>①世界の子供たちの現状について理解する。</p> <p>②世界の子供たちに対する取り組みや対策などから、世界の子供たちを支援するための工夫や苦勞、ストリートチルドレン、少年兵などの現実社会の背後にある問題を理解する。</p>
3	1 私の一中総学史(25)	これまでの総合的な学習で学んだことや自分の成長をふり返り、文章にまとめることを通して、地域や広い社会の一員としてのこれからの自分の生き方を考え、将来に渡って実践していこうとする意欲を高める。	命・生き方(ア)(イ)(ウ)	<p>○関心・意欲・態度</p> <p>①これまでの総合的な学習の時間で学んだことを学習記録などから意欲的にまとめようとする。</p> <p>②社会の一員として、今後積極的に生きていこうとする。</p> <p>○思考・判断</p> <p>①これまでの学習記録から学んだことや自分の成長した点を整理することができる。</p> <p>②まとめたことをもとにして、これからの自分の生き方を考えることができる。</p> <p>○技能・表現</p> <p>①これまでの学習の足跡や自分の成長、これからの生き方について、文章に書くことができる。</p> <p>②まとめたことや考えたことをわかりやすく仲間に発表することができる。</p> <p>○知識・理解</p> <p>①総合的な学習の時間を通しての自分の成長に気づく。</p>

(4) 単元指導計画のフォーマットとその作成要項

単元指導計画は、第Ⅱ章第5節に示されたフォーマット及びその作成要項に沿って作成することにした。

すなわち、①単元指導計画の対象学年及び担当者の決定→②単元名及び学習活動の決定→③単元設定に関わる「教師の願い」の決定→④単元設定に関わる「子どもの実態」

の記述→⑤単元の目標の決定→⑥単元の評価規準の作成→⑦学習過程における評価規準の具体化と評価資料の決定→⑧評価資料(略)→⑨評価基準の設定→⑩評価の3つの機能への対応計画の決定の順に沿って単元指導計画を作成することにした。

#### (5) 授業と評価の実際について

##### ① 指導と評価の一体化の工夫

従来の標準化されたテスト(時に、教師自作のテスト)中心に児童生徒の知識の量の多少を測定し、その得点結果を基に集団に準拠した評価(集団の中での相対的な位置付けによって児童生徒の学習状況を評価する、いわゆる相対評価)してこうとする評価の在り方からは、評価を通して指導の改善を図ろうとするいわゆる指導と評価の一体化は期待薄であろう。というのも、このようなテストによる学習の結果状況からは、児童生徒がなぜできなかったのか、はたして学習指導の過程のどこでつまづいたのか、したがってまた、いつたい指導のどこをどのように改善する必要があるかといった情報は得られ難いからである。

このようないわゆる測定重視の評価観から、いくなれば問題解決評価観への転換を図ればどうであろうか。

たとえば、続氏は「評価は目的追求—評価—調整という単位での目的追求活動における部分活動であって、追求活動の実績と目標との関係をチェックし、調整活動のためのフィードバック情報を提供するものである。」(続有恒『教育評価』第一法規, 1969, p.27)といった評価観を提案している。高浦氏は、J. デューイ(John Dewey)にならって、このような評価の見方・考え方を“問題解決評価観”と呼んでいる。この立場から続氏の評価観を解説すれば、評価とは、教師であれ児童生徒であれ、およそ問題解決している者が、その過程において、問題解決の遂行のために必要な資料・情報を収集し、それらの価値を比較判断(評価)する行為であると考えられる(高浦勝義『問題解決評価』, 明治図書, 2002, 第1章第4節参照)。授業は、まさにこのような教師の問題解決と評価とが一体化した形で展開される過程そのものであるといえよう。本研究において、私たちは、各単元ごとに、このような問題解決評価観に沿った指導と評価の一体化作業に取り組むことにした。

すなわち、指導と評価の一体化に向けた評価活動は、①授業の最初から最後まで絶えず営まれる活動であり、②その評価活動は、教師が予め作成した単元指導計画に基づいて実際の学習指導を行う→そのもとで、児童生徒が学習活動を展開する→観点別の評価規準の実現状況を学習の過程及び成果に関する学習資料・情報を基に評価する→そして、その評価結果を基に、自己の作成した指導計画を予定通り継続するか、あるいは改善を加えるかを判断し、その後の指導に臨む、といった一連の活動の連続的なサイクルとして実践されることが理解されよう。

なお、ついでながらいえば、第Ⅱ章第5節(1)におけるような単元指導計画のフォームを考え、しかも、単元の評価規準の実現状況を評価するために、既述のフォーマット中の「5 学習過程と評価計画」の<評価規準>欄に、それぞれの評価規準の実現状況を判断する時期や学習場面に対応させながら○付き数字で位置付け、しかも複数回以上にわたって評価していこうと考えたのは、実は、ここに記されたような指導と

評価の一体化作業を想定したからのことである。

上記のイメージを基に、各単元において、実際の指導と評価の一体化作業に取り組んだのであるが、その特質をまとめるに当たっては学習活動における具体的な「評価規準」の評価場面ごとに、その評価場面に至るまでの<①指導・学習の過程と②評価結果>及びその評価結果に基づく<③指導の改善と実施>を基本的な単位としてまとめることにした。

## ② 自己学習力の向上に向けた工夫

「生きる力」を育てる上から、教師の支援を得ながら、児童生徒が問題解決力、すなわち、自分で学習目標を決め→そのための計画を立て→友達と協力しながら自己追究し、その問題解決の過程で絶えず自己の活動の過程及び成果を学習目標に照らして評価し→やがて解決に至るという自己学習力（ないしは自己評価力）を身に付けることが大切である。

しかし、このような問題解決力を学校教育の初期の段階からいきなり身に付けることは困難であることはいままでもない。そのためには、まさにプケットらも提唱するような「足場づくり」(scaffolding)が必要である。すなわち、「まず、教師が課題なり学習内容の大部分を提供したり実施してみせ、その後、その役割部分を徐々に減らしていき、それにつれ、生徒が次第次第にその課題を引き受け、ついには完全にその“足場”が除去され、かくして生徒はその課題を一人で独立して追究できるようになる。」という考え方である(M.B.Puckett and J.K.Black, *Authentic Assessment of Young Child*, Macmillan College Publishing Company, 1994, p93)。

本研究において、私たちは、各単元ごとにこのような自己学習力の育成を意図した評価の実際に取り組んだのであるが、その際、大きく二つのレベルを考えた。

一つは、教師の主導のもとで児童生徒が学習活動及び評価活動を展開するというレベルであり、今ひとつは、教師の支援のもとで、児童生徒が自己の目標なり評価規準を定め(教師のその内面化)→その実現に向けた学習活動を展開し→その過程及び成果を振り返る(自己評価する)といったレベルである。なお、この第二レベルにおいては、このような自己学習を単元展開の中で部分的に展開する場合と全面的に展開する場合とが考えられるであろうことはいままでもない(安藤輝次『ポートフォリオで総合的な学習を創る』図書文化、2001、第4、5章参照)。

<第一レベルへ>の対応として、具体的に次のような工夫を行うことにした。

<1>一つは、教師による問題解決授業の工夫である。暗記中心の授業を改め、児童生徒が自ら問題的場面から問題を設定し、計画を立て、追究し、ついには解決に至り、まとめ・発表を行うといった授業及びその中の児童生徒に自己評価を求めるような発問等に取り組むことにした。

<2>授業中に実施する具体的な評価活動において、教師は、例えば以下のような工夫を試みる。すなわち、

ア 児童生徒の自己評価を求める場合(たとえば、学習は楽しかったか、最後までがんばったかに関して、はい-ふつう-いいえの回答を求める場合)、例えば「はい」-「ふつう」-「いいえ」それぞれに関する評価基準を予め説明して

から児童生徒の自己評価を求めるといった工夫を行う。

イ 児童生徒の学習カードなり制作物にコメントしたり、アンダーラインを引いたりするような場合、教師の意図（たとえば評価規準や評価基準等）が児童生徒に伝わるような工夫（たとえば、コメントした際の評価規準を示す、学習カード等に点数を付ける等）を行う。

ウ 学習カード等への記述を求める際、授業に先立って予めその学習カード等を提示したり、その評価基準を説明したりするといった工夫を行う。

エ 児童生徒が学習活動の過程や成果に関する資料・情報を、その評価結果とともに集積していくポートフォリオを授業中に活用し、学習のあとを振り返り次後に備えたり、あるいは授業終了時にまとめポートフォリオを作成する、さらには、ポートフォリオを家庭に持ち帰り保護者に提示し、保護者からのコメントをお願いし、次後の学習に活用する等の工夫を行う。

一方、＜第二レベル＞への対応として、例えば中間発表会を経て→最終発表に向けた活動に取り組み→最終発表会に臨むといったような機会等を活用しながら、児童生徒が自己の目標なり評価規準、さらには評価基準を設定し（教師のそのの内面化）→活動を展開し→その跡を振り返る（自己評価する）といった評価活動を展開するといった工夫を考えた。なお、そのような場合には、学習活動の前後において共通の評価資料（学習カード等）を活用するといった工夫も考えられることを申し合わせた。

また、第一レベル、第二レベルを問わず、いずれのケースの評価活動においても、実施したそれぞれの評価の工夫について児童生徒から感想なり意見を求めることにした。

また、報告の仕方やそのフォームに関しては各学校・学年担当の教員の裁量に委ねることにした。その特質に関しては各学校・学年からの実践編をご覧いただきたい。

### ③ 外部への説明責任に向けた工夫

保護者等外部への説明責任に向けた評価のためにはいろいろな機会や場面における工夫が考えられる。本研究においては、中でも、指導要録やそのフォームを参考にして作成される通信簿の作成を念頭に入れながら、各単元における絶対評価及び個人内評価の工夫を行うことにした。以下、その際の留意点や特質について紹介する。

〈1〉まず、各学期ごとに作成される通信簿や年に1回作成される指導要録への評価結果の記載のためには、何よりも各単元ごとの評価結果を残しておくことが不可欠であると考えた。たとえ年間1単元による指導ではあっても、途中の評価結果を適宜保存しておくことが好都合である。

〈2〉次に、実際の単元指導の過程において、評価の4観点別の「単元の評価規準」の実現状況を複数回以上評価することにしたが、この場合、いったいつ、どの場面における評価結果をその単元における総括的な評価結果（いわば最終的な評価結果）として保存するかが問われることになる。その場合、単元に応じて柔軟に考え、ある観点に関しては指導と学習の過程で複数回以上にわたって行ったすべての評価結果の総和を出して総括的な評価結果としてもよいし、ある観点に関してはある一部の特定された場面における評価結果で代表させてもよいことにした。

<3>また、評価結果をたとえ文章記述するにしても評価結果の得点化を考えておけば好都合であると考えたところから、評価規準の達成状況を判断するための評価基準を3段階に区分して表記し、それぞれ「A：十分に満足できると判断されるもの」を3点（80%以上相当の達成）、「B：おおむね満足できると判断されるもの」を2点（60%～79%相当の達成）、「C：努力を要すると判断されるもの」を1点（59%以下相当の達成）として考えていくことにした。

<4>さらに、次図のような学習活動の展開に沿って評価される各4観点別の評価結果を、個人ごとに記録していく「個人評価結果表」を作成することにした。

<個人評価結果表>

氏名	学習活動	学習活動1		学習活動2-①		学習活動2-②			学習活動③	
	評価規準	関①	思①	関①	技①	関②	思②	知①	思③	知②

すなわち、縦列に児童生徒の氏名欄をとり、横欄には学習活動の展開に対応しながら評価される具体的な評価規準を記しておく。そして、縦列と横列の交差するセルに、児童生徒ごとの評価基準に基づく評価結果（3, 2, 1）を記入していく。

このような「個人評価結果表」を作成しておけば、指導・学習の過程における評価結果を、クラス全体であれ児童生徒別であれ、即時に算出し、事後の指導・学習に生かしていくことが容易になる。また、単元終了時におけるクラス全体、あるいは児童生徒別の評価の4観点別の総括的な評価結果も容易に算出することができる。

<5>なお、単元の総括的な評価に関連して、中には、必ずしも評価の4観点それぞれを等価値的には扱わず、単元に応じて4観点相互の重みを変えて評価していこうとする考え方がみられる。しかし、私どもは評価の4観点はどの単元においても等価値的に扱っていこうと考えている。というのも、評価の4観点はいずれも自己教育力＝児童生徒の学ぶ力の育成を構成する資質や能力であり、どれ一つを欠いても児童生徒の学びは成立しないと考えるからである。

ところで、総合的な学習の時間においては、ことさら「児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価すること」という個人内評価を行うことが力説されているわけであるが、その際、教科と同様の評価の4観点を踏襲しながら個人内評価を行うことが可能であると考えた。すなわち、評価の4観点相互の発達的特質をみれば（観点間経時的評価）、その児童生徒の発達の強みなりよさや課題がみえてくるし、また、評価の4つの観点それぞれごとの発達的特質をみれば（観点内経時的評価）、それぞれの観点におけるその児童生徒の伸びや進歩の状況がみえてくると考えたからである。

このため、実際の評価作業においては、前出の「個人評価結果表」を活用しながら観点間及び観点内の両側面から個人内評価を行うことにした。

すなわち、観点間経時的評価に関していえば、例えば単元の総括的な評価結果をみれば、その児童生徒が4観点ともに十分に満足できるように育ったか、あるいは、ある

観点の育ちが他の観点に比べて遅滞しているかなどが分かる。そこで、評価の実際においては、このような4観点相互の発達の構造的な特質を指導・学習の流れに即して明らかにし、その結果を指導の改善に生かしたり、児童生徒の自己学習の促進に役立てることにしたのである。

一方の観点内経時的評価に関していえば、評価の4観点別に、それぞれの観点における育ちを指導・学習の最初から最後まで時系列的に追いながらその児童生徒の伸びや進歩等の発達的特質を絶えず明らかにし、その結果を指導の改善に生かしたり、児童生徒の自己学習の推進に役立てることにしたのである。